

# マルチメディアDAISY図書の利用を広げよう

—「わいわい文庫」の活用に期待

帝京大学教育学部  
教授 鎌田和宏

## 司書教諭講習でマルチメディアDAISYを紹介

障害者差別解消法が施行されてから1年が経った。

施行前後は、合理的配慮をどのように行えばよいのか研修の機会が設けられ、検討が行われてきたが、そのような取り組みは、落ち着いたかの感がある。すべきことが周知され、行われるようになっていれば問題はないのだが、周知の度合い、対応体制の整備はどのようなだろうか。

昨夏行った司書教諭講習の際に、マルチメディアDAISYについて紹介し、「わいわい文庫」についても紹介した。受講者の多くが初見のようで、熱心にメモを取られていた。

そのなかでも大きく反応され、このような素晴らしいものがあったのかと驚かれた方がいらっしまった。長年特別支援学校に勤務されて退職し、卒業生を中心に障がいのある人の読書支援に取り組まれている方であったのだが、自分が行っている支援活動で使うことができるのだろうかとの質問もいただ

いた。

さっそくその方の住んでおられるところを聞き、最寄りの公共図書館でDAISY図書のサービスをしているか調べたところ、さまざまな障がい者サービスに取り組まれている図書館で、DAISY図書の貸し出しの際の郵送サービスも行っていることがわかった。「さっそく活用します！」と喜ばれていた。その方はDAISY図書については知っておられたようだが、PCに長けていたわけではないので、活用までにはいたらなかったようである。

私も初期のDAISY図書の利用は、PCに詳しくない方にはハードルが高いのではないかと感じていた。学校図書館に興味のある方は、紙媒体の図書には親しみを感じ、よく利用されているが、PCやインターネットの活用、電子書籍などにはこれからという方がまだ多くいらっしまったように感じるのだが、どうだろうか。

最新の図書館学を学ばれた方々は、デジタル環境にも強いのが当然なのだろうが、学校に勤める者の多くにとっ

ては、ICTを自在に教育活動に活用しようというのには、まだこれからの課題のようである。

このような状況下で、「わいわい文庫」の紹介はインパクトがあったのだと思われる。光学ドライブにCDを挿入すると、すぐに使えるのである。受講者のノートには「わいわい文庫」や「伊藤忠記念財団」がメモされていた。

## 実際の活用に関する 周知や働きかけが必要

冒頭の話題にもどるが、公共図書館の障がい者サービスは、障害者差別解消法施行を機にまた一段と充実の方向に向かっているところが多い。しかし、周知や実際の活用のほうはどうだろうか。まだまだこれから働きかけていかねばならないのではないか。今後調査等が行われると思うが、日本人の常で、一時のこととならぬことを祈っている。

実は私は教員生活のスタートは特別支援学校だった。特別支援教育を学んだわけでもない私が、知的障がいのある高校生が学ぶ学校の教師となったのはいかがなものかと思うのだが、そういう巡り合わせだったのである。

この学校では多くのことを学ばせていただいたのだが、なかでも記憶に残っているのは毎月行われた卒業生対象の青年学級であった。卒業後のフォローということもあろう。月ごとに活

動メニューが考えられ、スポーツやレクリエーションが企画されたが、雨で外が使えなくなると、ビデオでの映画会となることが通例であった。

在学中はクラブ活動などで余暇の楽しみを見いだすことができたのだが、卒業して、企業に就労したり福祉的な就労をしたりするなかで見いだされた余暇の時間をうまく使えていない卒業生が多く、月に一度の青年学級を楽しむにしているのだと、先輩教師から聞かされた。

## 障がいのある子どもたちにとって の学校図書館

スポーツには相手がいるものが多く、場所や道具の制約もある。自分のペースで楽しむには、音楽やビデオ視聴をすることが多くなるのだとのこと。日常の楽しみをもっと豊かにできないだろうかと考えたが、駆け出しの私にはよい考えがうかばなかった。

初任の私に与えられた校務分掌は、学校図書館部であったのだが、勤務校は知肢併置校で、小・中・高の三学部あるマンモス校でもあったので、学校図書館へのニーズも多様で、学校図書館経営もなかなか難しかったように思う。

そのせいか分掌の活動が活発であった記憶がない。施設も急増する生徒に対応するためにつくられたプレハブ棟の外れにあり、廊下も図書館内も車椅

子での利用が可能なほど広くはなかった。コレクションも、障がいのある児童・生徒のニーズを視野にいれたものとなっておらず、まったく使われていないというわけではなかったが、形式的に設けられたものという感じであったように思う。

## さまざまな特別なニーズに 応えることができる マルチメディアDAISY図書

30年近く前のことであるから、そのような学校図書館もしかたのないところはあったのかもしれない。当時の私に耳打ちすることができたら、学校図書館を活用し、生徒に読書の楽しみや調べることの面白さと有用さを体験させ、公共図書館の利用へとつなげる指導ができれば、在学中はもとより、卒業後の生活も豊かになったのではないかと思う。

しかし、当時は、生徒の持っているさまざまなニーズに応じた豊富な資料は少なかったのではないか。あったのかもしれないが誰もが知っているという状況でなかったように思う

マルチメディアDAISY図書は、さまざまな特別なニーズに応える機能が備えられている。文字を読むことが困難な者には、読み上げる機能があり、文字列を注視することが困難な者には注視しやすく文字列を反転表示させる機

能がある。

知的障がいのある人が利用しやすいように、LLブック（わかりやすく編集されている図書）のマルチメディアDAISY版もある。

マルチメディアDAISY化された資料も、年々豊かになってきている。

マルチメディアDAISY図書の認知は広がりつつあるが、まだ広く一般的に知られるところというまでにはいたっていないと思う。

## 読むことに困難さを抱えている 子どもの指導

最近、私が気になっているのは、通常学級に潜在する読むことに困難さを抱えている子どもの指導である。

2012年に文部科学省が全国の公立小中学校を対象とした調査によれば、通常学級に在籍する6.5%の児童・生徒が、発達障がいの可能性があることとされていることである。

これは医師の診断でなく、教師などの周囲の見立てであることには注意しなくては行けないが、40人学級であれば、2～3人の子どもが学習に困難な状況であるということだ。特別支援学級や特別支援学校では、特別な教育的ニーズに応ずる教育実践が行われており、DAISY図書の活用も進んできており、通常学級ではなかなかそこまでいたっていない。

通常学級に潜在する特別な教育的ニーズに応ずるために、マルチメディアDAISY図書を活用することによって、障がいゆえに読むことに苦手意識をもち、嫌悪感・拒否感をもつ子どもを支援することができるのではないか。

ただでさえ読むことは、初学者にはハードルの高い行為である。マルチメディアDAISY図書の活用によって、多くの子どもたちが読むことに慣れていく支援が行えるだろう。授業のユニバーサルデザイン化の必要がいわれて久しいが、マルチメディアDAISY図書

の活用を位置づけてはどうかと思うのだが如何だろうか。

「わいわい文庫」は、マルチメディアDAISY図書の活用に大きく貢献されていると思う。マルチメディアDAISY図書の利用のハードルを下げ、資料の豊富化に大きく貢献されている。

しかし、周知について（特に活用の方法について）は、まだ行うべきことがあるように思う。マルチメディアDAISY図書を届ける先は、まだまだあるのではないだろうか。

